

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年2月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数は減少傾向ですが、その速度は鈍化してきています。
- インフルエンザは例年より報告数が少ないです。
- 梅毒の報告がやや減少しています。

◇ 全数把握の対象

〈2月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	2件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	4件
E型肝炎	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	7件	水痘(入院例に限る)	1件
アメーバ赤痢	5件	梅毒	3件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件	-	-

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O血清群不明1件、O128が1件(いずれも無症状病原体保有者)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 2 E型肝炎: 4件(うち無症状病原体保有者1件)の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型5件、ポンティアック熱型2件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が5件あり、うち1件が性的接触による感染が推定されています。
- 5 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 3件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 6 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者が2件、AIDSが1件、その他が1件の報告がありました。うち3件が性的接触(同性間2件、異性間1件)による感染が推定されています。
- 7 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満が1件(ワクチン接種歴4回あり)、70歳代が1件(ワクチン接種歴不明)、90歳代が2件(1件がワクチン接種歴1回あり、1件がワクチン接種歴無)報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 8 水痘(入院例に限る): 50歳代の臨床診断例(ワクチン接種歴無)の報告が1件ありました。
- 9 梅毒: 早期顕症梅毒 I 期3件の報告がありました。いずれも男性で、うち2件が異性間性的接触による感染が推定されています。

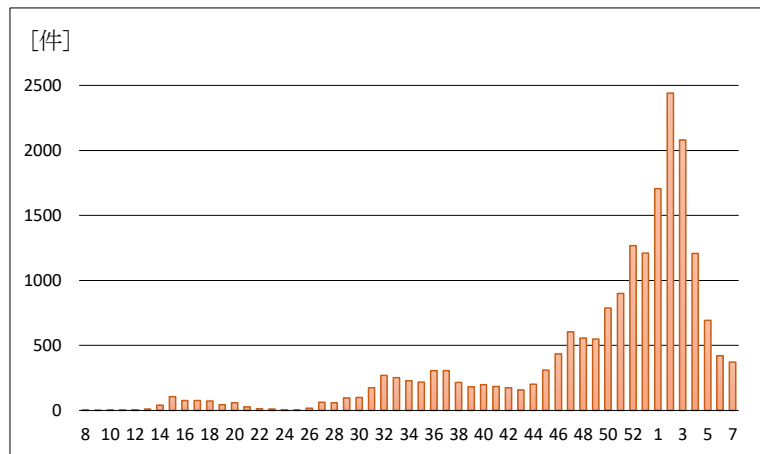
◇ 新型コロナウイルス感染症

第4週～第7週に横浜市から報道発表のありました症例は2,693件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)

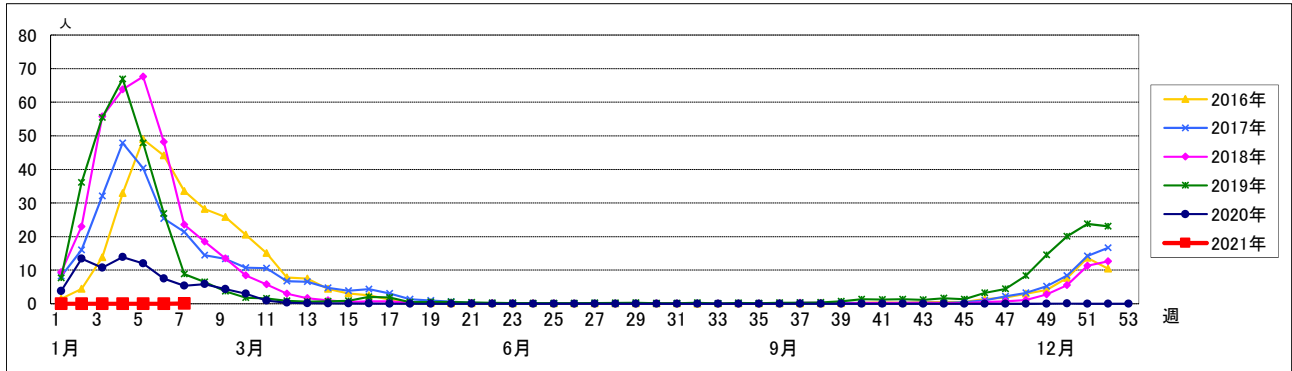


[週]

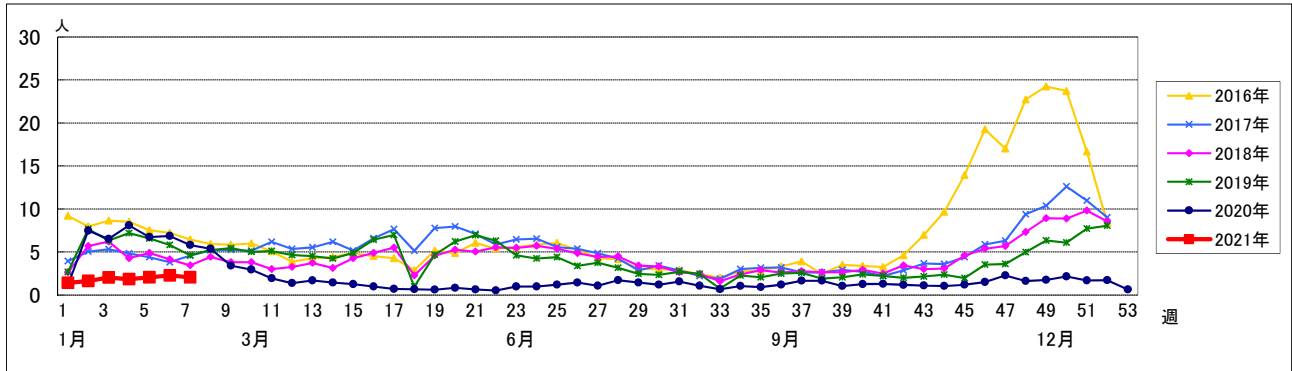
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第4週	1月25日～1月31日
第5週	2月1日～2月7日
第6週	2月8日～2月14日
第7週	2月15日～2月21日

1 インフルエンザ:今シーズンは例年より低めの報告数で推移しており、第7週は0.02です。



2 感染性胃腸炎:例年より低めの報告数で推移しています。第7週は2.06です。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:17件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:14件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:0件	淋菌感染症	男性:8件	女性:5件

4 基幹定点週報

	第4週	第5週	第6週	第7週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	3件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月25日から2月21日までに病原体定点から搬入された検体は、小児科定点25件、内科定点3件、眼科定点1件、基幹定点2件、定点外医療機関からは1件でした。

アデノウイルス1型分離1株及びライノウイルス遺伝子1件、VZV遺伝子1件、ノロウイルスG2遺伝子2件が検出されています

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果2月期(2021年第4週～第7週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	胃 腸 炎	水 痘
アデノウイルス1型	1 -			
ライノウイルス		- 1		
VZV				- 1
ノロウイルスG2			- 2	
合計	1 -	- 1	- 2	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2 月期(2021 年第 3 週～第 7 週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から侵襲性肺炎球菌1件、カンピロバクター1 件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 3 件、過粘稠性肺炎桿菌 3 件、カンピロバクター1 件の検査依頼がありました。

保健所からは、劇症型溶血性レンサ球菌 2 件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からレジオネラ 5 件の検査依頼がありました。小児科定点からは溶血性レンサ球菌 1 件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第3週～第7週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等	
基幹定点	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> UT (1)	
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter volucris</i> (1)	
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	3	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)	
	過粘稠性肺炎桿菌	3	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (3)	
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter fetus</i> (1)	
保健所	劇症型溶血性レンサ球菌	2	G群溶血性レンサ球菌 (1)、 B群溶血性レンサ球菌 III型 (1)	
分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
保健所	喀痰	レジオネラ	5	<i>Legionella pneumophila</i> SG6 (1)、不検出 (4)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等	
小児科定点	溶血性レンサ球菌	1	不検出 (1)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】